

社会資本総合整備計画（住環境整備事業 バリアフリー環境整備促進事業） 事後評価書

平成 29 年 2月10日

計画の名称	阪神芦屋駅・市役所周辺地区における住環境の整備																
計画の期間	平成24年度～平成26年度（3年間）					交付対象	芦屋市										
計画の目標	交通バリアフリー基本構想に基づき、生活関連経路のバリアフリー整備を行うことにより、高齢者等の住環境の向上を図ることを目的とする。																
計画の成果目標（定量的指標）	高齢者及び身体障がい者等のエレベーター利用率を2.2%とする																
定量的指標の定義及び算定式	エレベーター設置箇所に近接する階段出入口の利用者数により算出する。 (高齢者及び身体障がい者等のエレベーター利用率) = (高齢者及び身体障がい者等のエレベーター利用者数) / (階段出入口の利用者数)										定量的指標の現況値及び目標値	備考					
											当初現況値 (H24当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H26末)				
											0%	-	2.2%				
全体事業費	合計 (A+B+C)	97百万円	A	83百万円	B		C	14百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		14.4%						
事後評価																	
○事後評価の実施体制、実施時期																	
事後評価の実施体制					事後評価の実施時期												
芦屋市公共事業評価検討委員会					平成28年度												
					公表の方法												
					芦屋市ホームページ												
1. 交付対象事業の進捗状況																	
交付対象事業																	
A 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H24	H25	H26	H27	H28		
1-A1-1	住宅	一般	芦屋市	直接	芦屋市	-	-	バリアフリー環境整備促進事業 (阪神芦屋駅・市役所周辺地区)	エレベーター設置 2基	芦屋市						83	
																...	
																...	
																...	
																...	
																...	
											合計	83					
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H24	H25	H26	H27	H28			
																...	
											合計						
番号												備考					
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H24	H25	H26	H27	H28			
1-C1-1	住宅	一般	芦屋市	直接	芦屋市	-	市庁舎敷地園路整備事業	園路整備 300㎡	芦屋市						14		
															.		
															.		
															...		
															...		
															...		
															...		
															...		
															...		
															...		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
1-C1-1	基幹事業(1-A1-1)と一体的な経路の整備により移動円滑化の向上を図る。																

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況				
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> エレベーターの設置、園路の整備により阪神芦屋駅から国道43号の横断までの経路の移動円滑化が図られた。 エレベーターの周辺を通行している高齢者のうち4割、身体障がい者、ベビーカー利用者においては9割の方々がこのエレベータを利用している。よって、当事業を実施することで、高齢者等が円滑に移動可能となる環境が形成されたと認識できる。 		
II 定量的指標の達成状況	指標①（エレベーター利用率）	最終目標値	2.2%	目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値	4.5%	
	指標②	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値		
	指標③	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因
		最終実績値		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		園路は出入り口がエレベーター正面にあり、エレベーター利用者のための動線として機能しており、駅や周辺道路への移動円滑化に寄与している。また、整備した園路を通学路として利用するようになり、交通量の多い時間帯である登校時の学童の安全性が向上している。		
3. 特記事項（今後の方針等）				

(参考図面)

